

# 赤白



貝塚市立二色小学校 校長室だより第44号

H23年11月28日発行

貝塚市二色1-3-1

Tel 072-438-2925 Fax 438-2926

☆11月23日(水)、貝塚市「少年の主張大会」二色小学校の代表として発表した6年生の主張をご紹介します。最後まで読んでみてください。☆26日(土)、小春日和の中、学校がきれいになりました!! 多数のご参加、本当に感謝しています。体育施設開放の方々もご協力くださいました。

表そう、感謝の気持ち!

二色小学校六年 易本 健志

から揚げ、コロッケ、新鮮なマグロやサーモン。今、日本では、とてもおいしい食べ物があふれています。ぼくもそうですが、最近の若い人たちはとても簡単においしい食べ物を手に入れ、それが当たり前だと思っているようです。

平和学習で昔のくらしを学んだ時、戦後の日本では人々はとても苦労して、ほんの少しの食料を手に入れていたことを知りました。それなのに、今の子ども達には、「お母さんそれくらいやからこれにして。」などとあまえたり、給食の時、「こんななんらんからあげるわ。」のように、食べ物を粗末にしている人もよく見かけます。

その時、いつもぼくは腹が立ちます。野菜やくだもの、肉や魚など農家の人たちや漁師の人たちが、一生懸命に働いて収穫してくれているのに、その人たちの気持ちをわかっていない、わかるうともしない人たちがたくさんいるからです。

みなさん、知っていますか?日本人は食料の三分の二を捨てていることを。そして、外国では食べ物がないと死んでいく人がたくさんいることを。みなさん、本当にこんなことがあっていいと思いますか。こんな悲しいことがあるのに、何かできることはないのかと思っている人はいませんか?

好き嫌いをなくすとか、ぼく達一人一人が考えたら、

いろいろな意見が出ると思っています。それをそのまま実行してほしいです。ぼくはキノコがきらいです。でも、苦手のキノコもがんばって食べています。そして、食べられることに感謝して、「いただきます」「ごちそうさま」を言うようにしています。また、ぼくの母は、産直市場で、新鮮な野菜を買ってきて、家族がおいしく食べられるように工夫して料理をしてくれています。両親は家族のために一生懸命仕事をしてってくれています。食事の時は、両親にも感謝の気持ちを忘れてはいけないと思います。

ぼくがもう一つ、いつも考えていることがあります。それは、食べ物を大切にすること、友達を大切にすることと同じだということです。「Aさん、うざい。Bさんの方がよっぽどいいわ。」というように、食べ物と同じように友達についても悪く言う人がよくいるからです。

友達がいるということ、休み時間一緒に遊べるということ、いろんな話ができるということ、友達がいっしょにいることを当たり前と思っていまいませんか。東日本大震災で、学校や家が被害にあい、友達が亡くなったたり、また会えなくなったりしています。学校以外の場所ですべて卒業式ができた、久しぶりに会えた友達と抱き合って泣いているのをテレビで見ました。

友達も仲良くなつて協力し合うと、友達の輪が広がり、人の長所を見つけ合うようになると思います。人と人が感謝することで、人間関係がよくなると思います。そして、みんなの心がきれいになると思います。

たとえば、AさんがBさんに鉛筆や消しゴムを貸してもらったとします。AさんはBさんにちゃんと「ありがとう」と言ってお礼の気持ちを伝えました。するとBさんは、また感謝されることをしてあげようと思います。反対に、Aさんが貸してもらったことを当たり前にしていたらどうでしょう？感謝の気持ちを表さなければ、BさんはAさんのことがいやになるでしょう。そして、親切にすることをやめてしまうかもしれません。

感謝することでやさしい人たちが増え、それが広げば、平和につながります。みんなが安心して暮らせるような世の中にもなると思います。

東日本大震災で台湾に援助してもらったことの感謝の気持ちを込めて、日本のライフセーバーが台湾まで泳ぎました。感謝の気持ちは「海を渡り、国境も越える力があるんだなあと思います。

食べ物につながるたくさんの人に感謝して「いただきます」「ちそうさま」を言い、友達にも感謝して、「ありがとう」と伝えていくことで、世界中に感謝の気持ちがあふれることを、ぼくは願っています。

みなさんも一緒に感謝の気持ちを表していきませんか？



どうでしたか？当日の講評では、『わかりやすく実行しやすい主張であった。大人の私達も改めて「ごちそうさま」や「ありがとう」を、心をこめて言うようにしたい。力強く説得力があった』と褒めていただき、「優秀賞」をいただきました。おめでとうございます。私は、易本さんが、新聞やテレビの情報に対して、自分の意見を持ちながらあれこれ考えているところに、高学年らしい頼もしさを感じました。

今、二色小学校で児童の保健委員会を中心に、～(ふわふわ)言葉でいっぱいしよう～をやっているのを、お子様から聞かれていますか？心がやさしくなり、<ちくちく>しない、人と人とのつながりがより広がっていくような言葉を増やそうという活動です。あちこちに(ふわふわ)言葉ポストがあり、いつでも集められるようになっています。

とかく忙しくて、毎日毎日<ちくちく>進んでいる、大人の自分達も<ちくちく>ストレスがたまってきて…ついつい子どもにもきつい言葉が出てしまう…のが日常ではないでしょうか。でも、易本さんの主張を読んでみて、つくづく「ありがとう」をもっと言ってみよう！と私も再確認できたので、今回全文を載せてみました。みなさんは何を考えられましたか？

ご感想をお寄せくださると嬉しいです。(※校長室便り全般へのご希望やご意見でも結構です)

